

学校名 (児童数)	豊郷町立豊郷小学校 (254人)
--------------	---------------------

(本研究に係る問い合わせ先)

所在地：滋賀県犬上郡豊郷町石畑 522

電話番号：0749-35-2010

【研究の目的、研究内容】

(1) 研究主題

算数科の基礎・基本の力を身につけ、活用できる子どもの姿を求めて
～「できた」「わかった」を実感できる算数科の学習を通して～

(2) 研究主題設定の理由

本校では、平成25年度から県教委指定の学力向上アプローチ事業を受けて、算数科を中心にした学力向上に向けた授業改善に取り組んでいる。主に、『ねらいに沿った評価問題の作成』『ペア学習・小集団・全体交流での話し合い活動の工夫』『子どもの思考過程がわかり、振り返ることができるノートの工夫(豊小スタンダード)』『家庭における学習時間の確保と自主学習の充実に向けた工夫』について意思統一を図り、共通実践を積み重ねている。

平成25年度～26年度の継続した取組の結果、徐々にではあるが成果が見え始めてきた。毎年2月に実施している標準学力テストでは、一昨年度に比べ、昨年度は3年生4年生6年生で、活用問題で3ポイント以上の改善が見られ、また、観点別では、数学的な関心・意欲・態度において、3年生から6年生で3ポイント以上の改善が見られた。さらに、数学的な考え方についても、3年生4年生6年生で改善が見られた。

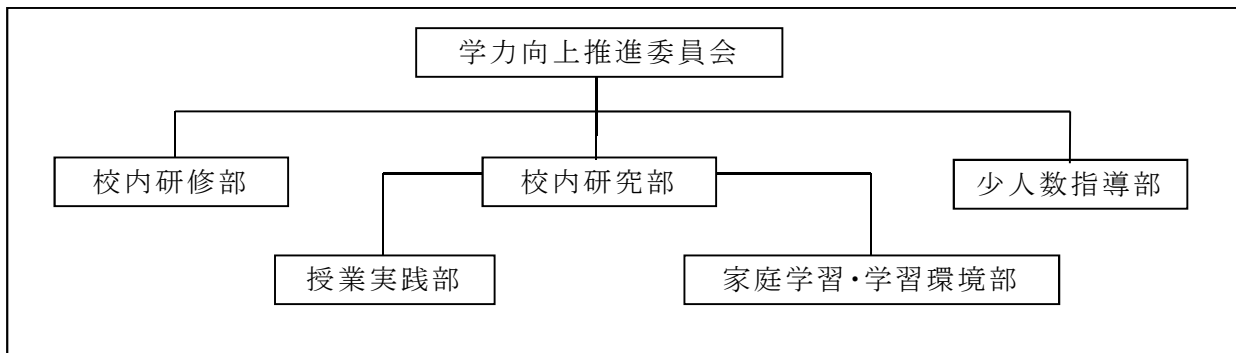
しかし、4月実施の全国学力・学習状況調査においては、数学的な考え方で全国平均に近付いてはいるものの、依然として下回っている。

この取組を生かしながら、平成27年度はさらに子どもたちに確かな学力をつけていくために、どの子にも「できた」「わかった」を味わわせ、自信につながるように授業改善を図り、基礎学力の定着と基礎学力を土台とした活用能力の向上につなげていかなければならないと考える。

本校の学校教育目標は、『いのち・人権を大切にし、豊かな心と確かな学力を身につけた子どもの育成』《自信・夢・勇気・めあてとその達成》である。

自分の考えを積極的に述べ、友だちの考えのよさを認め、力を合わせながらよりよい考えを追求していく学習過程の中に、学校教育目標の具現化を目指すための要素があると考え。そして、一人ひとりが「できた」「わかった」を実感できる体験を重ねることが、自信・夢・勇気をもった子どもたちの育成につながり、めあてを意識した取組ができるようになると考え、本主題を設定した。

(3) 研究体制



授業実践部会

評価問題の作成と授業後の検証、指導内容の検討

①ねらいを明確にした単元構成と授業づくり

②評価問題からの授業改善

③思考過程がわかり、振り返ることができるノートづくり

(豊小スタンダードになるようなもの)

家庭学習・学習環境部会

①学習規律の徹底

②基礎基本を大切にされた家庭学習と自主学習の充実

(家庭学習の手引きの改訂)

(4) 1年間の主な取組の経過

4月22日(水)	校内研究会全体会	今年度の研究概要確認
6月24日(水)	第1回校内授業研究会	5年「図形の角の大きさ」
8月21日(金)	校内研究会全体会	1学期の取り組みを振り返って
10月1日(木)	第2回校内授業研究会	3年「いろいろなわり算」
10月28日(水)	第3回校内授業研究会	6年「比例と反比例」
11月25日(水)	第4回校内授業研究会	(兼 近隣市町校公開) 4年「式と計算の順じょ」
1月27日(水)	第5回校内授業研究会	2年「10000までの数」
2月17日(水)	第6回校内授業研究会	1年「図をつかってかんがえよう」
3月2日(水)	校内研究会全体会	今年度のまとめ及び来年度に向けて

(5) 具体的な研究内容・方法，研究を進める上での工夫点等

① 出口を意識した評価問題からの単元構成や算数的活動の工夫

- ・単元のねらいに沿った単元末の評価問題を作成し、指導内容の焦点化を図る
- ・既習内容と子どもの実態をふまえて、学習のねらいを明確にした授業づくりを進める

② 「できた」「わかった」を実感する授業の工夫

- ・具体物、半具体物を使った体験的な算数的活動の工夫



6年生

学習したことを実際に具体物(割りばしの重さと本数の関係)を用いて確かめを行った。学習を通して課題を解決することができたかどうか、最後まで興味を持続させることができた。



4年生

実際に、図を切ったり折ったりしながら考えることで、式と図を結び付けたり、新たな視点で考えたりするきっかけになった。

- ・ペア学習や小集団、全体交流での話し合い活動の充実



5年生



算数グループで話し合いを進め、全体交流につなげる。意図的にグループ編成を行うことで、活発な意見の交流を行える。また、グループごとに積み上げた内容を全体で交流することで、多様な意見や表現の仕方を学ぶ機会になった。

家庭学習の記録

家庭学習は、最低1日1時間はしよう！
2学期だけで100時間のぞがしてがんばろう！
「ていねい」内容を考え取り組もう！

自主学習 一週間の計画表		学習内容			
月	学習内容	ていねい	内容	達成感	時間
月	理科	◎	◎	◎	60分
火	算数	◎	◎	◎	75分
水	社会	◎	◎	◎	60分
木	家庭	◎	◎	◎	55分
金	家庭	◎	◎	◎	65分
土	家庭	◎	◎	◎	75分
日	家庭	◎	◎	◎	分

今週の家庭学習の時間 **390** 分
累計の家庭学習の時間 **910** 分

家庭学習メニュー表

NO	教科	メニュー	内容
1	国語	ゆめ日記	もしも〇〇になったら・・・？ もしも△△だったら・・・？ 想像して日記を書いてみよう。
2	算数	百マス計算	足し算・引き算・かけ算が何分 くらいできるのか・・・。 時間を計ってチャレンジ！！
3	国語	言葉調べ	本や新聞の記事を読んで、意味 がわからない言葉を国語して んを使って調べよう！
4	算数	計算ドリル ショートテスト	今までにやった問題をふく 習してみよう！
5	算数	図形	コンパスを使って絵をかく てみよう！正かんに使ってか けるかな？
6	理科	キーワード	教科書やノートにまとめた大 切な言葉をふり返り、ノートに 整理しよう！
7	社会	きょうみを広げて	新聞記事やニュースを見て、き ょうみのある事について自分 の考えを書いてみよう！
8	音楽	音階	楽ふをよむときに大切な音階、 ドレミの位置をかくにんし よう！
9	国語	漢字練習	ドリルを見て今までに習った 漢字を正しく書いたり、にた形 の漢字を書いたりしよう！

かならず書こう(^_^)v
ページの始めに「日づけ」「学習内容」「めあて」「取り組んだ時間」を書く！
ていねいに取り組む事で、つぎへのやる気につながります！

家庭学習のすすめ

小学校6年生を対象にした全国学力・学習状況調査の結果から、学力と学習環境、生活環境は大きな関連性があり、学力は「学校での学習」と「家庭での学習」の両方の努力で向上するということがわかってきました。学校で子どもたちの学力向上に取り組んでいくのと同時に、学校と家庭が連携して取り組んでいくことで、学習内容がより確かに定着し、学力が伸びていくと考えます。子どもたちの確かな学力の定着をともに目指していきましょう。

豊洲小学校の子どもたち

全国や埼玉県平均と比べて見えてきた豊洲小学校の子どもたちの特徴的な傾向。

- テレビやゲーム、インターネット等をやる時間が長い。
- 毎日同じ時刻に起きているが、起床時間が遅い。
- 人の声は最後まで大切に聞くことを大切にしている。

各ご家庭でテレビを見る時間やゲーム、インターネットをする時間を少し減らす、約束を決めるなどして学習する時間を少しでも増やせるような生活のリズムをつくってみてください。

家庭学習の意義

家庭学習がなぜ必要なのでしょう。効果の一部を挙げてみます。

学習内容の定着

学校で学習したことを復習することで習熟を図れます。特に漢字や計算の基礎的な力は毎日繰り返して練習することで定着していきます。

脳の活性化

読み、書き、計算を毎日することは脳の活性化につながると言われていいます。手足の筋肉と同じで毎日繰り返して使うことで脳にも活性化につながると言われています。

学習習慣をつける

家庭学習をしようとするときそれをしないでおこうという気持ちがわくことがあります。その誘惑の大きなものがテレビでありゲームです。この誘惑に打ち勝って我慢強さや根気、集中力を養うことができ、学習することが習慣となれば大きな力となります。

家族のふれあい

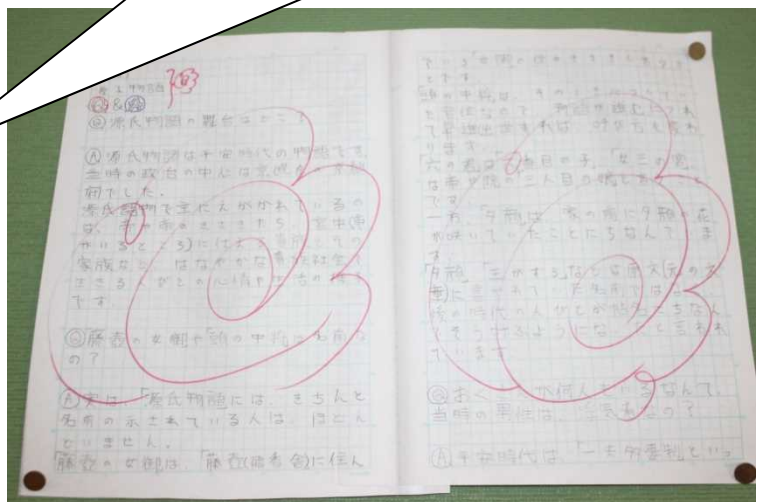
「音読をするとお母さんで聞く」、「わからない問題を教える、一緒に調べよう」など学習をしている子どもに関わることでコミュニケーションが図れます。家族のふれあいの機会が増えることは、子どもの精神の安定につながり、心身の成長につながります。

学年以降に家庭学習のポイントや自主学習の内容を掲載します。

毎日の自主学習でも、日にち・内容・めあてを書いている子が増えてきた。取り組んだ時刻を記入することで、内容との整合性も確認できる。



各学年の自主学習ノートを展示することで、他学年の良い取り組みを参考にしたり、お手本となる学習の進め方を広めたりする機会を設けている。また、紹介されることが、取り組みへの意欲向上にもつながっている。



④学習規律の徹底

・低、中、高学年用の『勉強の約束』を作成し、全校で確認・実践

ばんきょうの やくそく 1・2年生	学習の約束 3・4年生	学習の約束 5・6年生
<p>1. ばんきょうの どうぐを そろえよう。</p> <p>ばんきょうの、のり、はさみ、クレパス、色えんぴす。</p> <p>ばんきょうの、えんぴす、鉛筆、色えんぴす、消しゴム、しりとり、はさみ、のり、はさみ、クレパス、色えんぴす、コンパス、分度器（4年生）。</p> <p>ばんきょうの、えんぴす、鉛筆、色えんぴす、消しゴム、しりとり、はさみ、のり、はさみ、クレパス、色えんぴす、コンパス、分度器（4年生）。</p> <p>ばんきょうの、えんぴす、鉛筆、色えんぴす、消しゴム、しりとり、はさみ、のり、はさみ、クレパス、色えんぴす、コンパス、分度器（4年生）。</p> <p>ばんきょうの、えんぴす、鉛筆、色えんぴす、消しゴム、しりとり、はさみ、のり、はさみ、クレパス、色えんぴす、コンパス、分度器（4年生）。</p> <p>ばんきょうの、えんぴす、鉛筆、色えんぴす、消しゴム、しりとり、はさみ、のり、はさみ、クレパス、色えんぴす、コンパス、分度器（4年生）。</p> <p>ばんきょうの、えんぴす、鉛筆、色えんぴす、消しゴム、しりとり、はさみ、のり、はさみ、クレパス、色えんぴす、コンパス、分度器（4年生）。</p>	<p>1. 学習の道具をそろえよう。</p> <p>ばんきょうの、のり、はさみ、クレパス、色えんぴす、コンパス、分度器（4年生）。</p> <p>ばんきょうの、えんぴす、鉛筆、色えんぴす、消しゴム、しりとり、はさみ、のり、はさみ、クレパス、色えんぴす、コンパス、分度器（4年生）。</p> <p>ばんきょうの、えんぴす、鉛筆、色えんぴす、消しゴム、しりとり、はさみ、のり、はさみ、クレパス、色えんぴす、コンパス、分度器（4年生）。</p> <p>ばんきょうの、えんぴす、鉛筆、色えんぴす、消しゴム、しりとり、はさみ、のり、はさみ、クレパス、色えんぴす、コンパス、分度器（4年生）。</p> <p>ばんきょうの、えんぴす、鉛筆、色えんぴす、消しゴム、しりとり、はさみ、のり、はさみ、クレパス、色えんぴす、コンパス、分度器（4年生）。</p> <p>ばんきょうの、えんぴす、鉛筆、色えんぴす、消しゴム、しりとり、はさみ、のり、はさみ、クレパス、色えんぴす、コンパス、分度器（4年生）。</p> <p>ばんきょうの、えんぴす、鉛筆、色えんぴす、消しゴム、しりとり、はさみ、のり、はさみ、クレパス、色えんぴす、コンパス、分度器（4年生）。</p>	<p>1. 学習の道具をそろえよう。</p> <p>ばんきょうの、のり、はさみ、クレパス、色えんぴす、コンパス、分度器。</p> <p>ばんきょうの、えんぴす、鉛筆、色えんぴす、消しゴム、しりとり、はさみ、のり、はさみ、クレパス、色えんぴす、コンパス、分度器。</p> <p>ばんきょうの、えんぴす、鉛筆、色えんぴす、消しゴム、しりとり、はさみ、のり、はさみ、クレパス、色えんぴす、コンパス、分度器。</p> <p>ばんきょうの、えんぴす、鉛筆、色えんぴす、消しゴム、しりとり、はさみ、のり、はさみ、クレパス、色えんぴす、コンパス、分度器。</p> <p>ばんきょうの、えんぴす、鉛筆、色えんぴす、消しゴム、しりとり、はさみ、のり、はさみ、クレパス、色えんぴす、コンパス、分度器。</p> <p>ばんきょうの、えんぴす、鉛筆、色えんぴす、消しゴム、しりとり、はさみ、のり、はさみ、クレパス、色えんぴす、コンパス、分度器。</p> <p>ばんきょうの、えんぴす、鉛筆、色えんぴす、消しゴム、しりとり、はさみ、のり、はさみ、クレパス、色えんぴす、コンパス、分度器。</p>

⑤校内授業研究会における検討内容の工夫

・活発な意見交流がしやすいように、グループ討議を取り入れた授業研究会を進める。
 （経験年数によるグループでは、若手からベテランまで、予想以上に活発な意見交流になった）

【研究成果と課題】

（1）研究成果

3カ年の研究指定の最終年として、昨年度に引き続いて全国学力・学習状況調査を基に、研究内容に関わる項目についてアンケート調査（次頁参照）を3～4年生を対象に1月に実施した。

その結果から、豊小スタンダードの定着を目指して全校で共通実践してきた成果として、学習の記録のみならず、思考過程を書きとめ、振り返ることができるノートづくりに関して、約87%の児童が意識できていると回答し、昨年度から10%増加した。また、授業でペアやグループ、全体で話し合い活動をよく行っていると回答した児童が約84%と、こちらも昨年度に比べて4%増加した。自らの考えだけにとらわれず、他者の考えから思考を深めたり広げたりすることを目指して取り組んでいることが児童にも浸透しつつあることがわかる。

さらに、毎日の学習を確実に定着させていくために家庭学習時間（学年×10分）を意識させた結果、学習計画を立てて家庭学習に臨む児童が約57%と昨年度よりも8%増加した。3年間の取組の積み重ねによって徐々にではあるが、児童の意識を変え、また、同時に教職員自身も積極的に取り組むようになってきた。

児童の意識や取り組む姿勢が変わってきたことで、保護者にも良い変化が見られている。例年実施している保護者アンケートにおいて、「家庭学習の習慣が身についてきたと思いますか」という項目では、今年度もわずかではあるが増加（H.25 69.8% → H.26 71.3% → H27 74.5%）した。3年間の取組に加えて、学校からの啓発活動の継続により、保護者の意識も徐々にではあるが変化が見られ、家庭においての励ましなども増えてきた結果である。

【実施した学習アンケート】

項目	している 当てはまる (当てはまる)	どちらかと いえばしている (当てはまる)	どちらかと いえばしていない (当てはまらない)	全くしていない (当てはまらない)	その他
①自分で計画を立てて、家で勉強していますか。	21.1%	27.8%	39.1%	12.0%	-
	28.9%	27.7%	25.2%	15.7%	2.5%
②家で、学校の宿題をしていますか。	82.0%	13.5%	3.8%	0.8%	-
	82.6%	10.6%	4.3%	2.5%	0%
③授業では、学級の友だちとの間で話し合う活動をよく行っていると思いますか。	35.3%	45.1%	12.0%	7.5%	-
	41.5%	42.8%	10.1%	5.7%	0%
④授業の始めに、目標（めあて・ねらい）が示されていると思いますか。	62.1%	27.3%	8.3%	2.3%	-
	70.0%	19.4%	8.1%	2.5%	0%
⑤感想文や説明文を書くことは難しいと思いますか。	38.6%	19.7%	18.2%	23.5%	-
	30.6%	30.6%	23.6%	14.6%	0.6%
⑥授業などで、自分の考えを他の人に説明したり、文章に書いたりすることは難しいと思いますか。	28.8%	30.3%	23.5%	17.4%	-
	29.6%	35.8%	20.1%	13.8%	0.6%
⑦算数の授業で問題の解き方や考え方が分かるようにノートに書いていますか。	43.9%	32.6%	18.2%	5.3%	-
	51.9%	35.0%	8.8%	3.1%	1.3%

* 上段…昨年度（-は調査なし） 下段…今年度

（２）課題等

- ・ 具体物、半具体物を使った体験的な算数的活動の工夫について
授業中に、学習内容に応じて具体物を操作したり、視覚的に示したりしてきた。理解をさせる上で有効な手立てではあったが、人数分、クラス分など物理的にそろっていなかったり、準備が難しいものがあったりした。今後、順次、製作するなど解決方法を考えていきたい。
- ・ ペア学習や小集団、全体交流での話し合い活動の充実について
ペアやグループでの活動の際に、ノートを示しながら説明する姿は定着しつつあるが、今後は、さらに比較して聞いたり、分からないことを質問したりするような活発な交流になるための工夫を考えていきたい。
- ・ 家庭学習、自主学習においても活用できるノートにするために豊小スタンダードになるような型の統一と共通実践について
本校としてのノートの型が定着しつつあり、児童の意識の高まりも感じている。

しかし、今後、さらに質の高いものにしていくために、今の基本の上に、自分に必要な情報を加筆できるよう引き続き指導をしていく必要がある。また、ノートを自分専用の参考書（間違いの傾向を知るための）にしていくために、間違いを残していくことも大事であることの意識化を進めていく必要がある。

- ・家庭における学習時間の確保と自主学習の推進について

家庭学習についての児童の意識は向上してきている。保護者の意識についても、昨年度、一昨年度に比べて徐々にではあるが改善傾向にある。しかし、依然として約 25%の保護者の方が家庭学習の習慣化が図られていないと感じておられる現状がある。家庭学習をすることが特別なことではなく、どの児童にとっても当たり前のことになり、児童が自ら計画を立てて家庭学習ができるように働きかけるとともに、保護者にも関心をもっていただけるように学校からの声かけを含めた啓発活動を行っていく必要がある。